

(始良郡栗野町木場牛瀬戸)

位置と環境

遺跡はJR 栗野駅より南西へ約600m離れた標高約210mの背後に小高い山をひかえ北方に平野を望む河岸段丘状に位置する。

調査の経緯

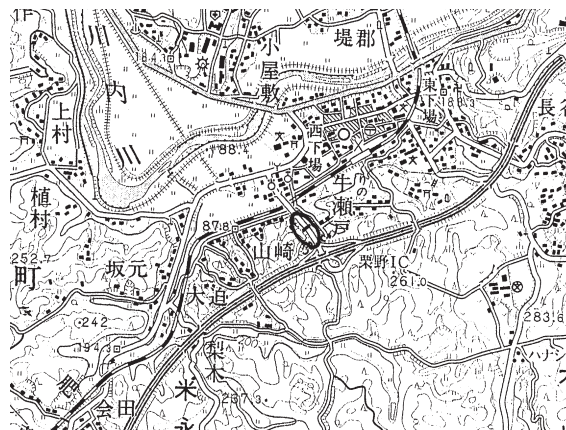
九州縦貫自動車道建設に伴って、県教育委員会が昭和53年から54年にかけて発掘調査を実施した。遺跡面積は8,400m²である。

遺構と遺物

旧石器時代・縄文時代早期～晩期・古代～中世にかけての遺構・遺物が発見された。

旧石器時代の遺物は、二次堆積の砂礫層からの出土であるが、細石刃核・尖頭器等が出土している。縄文時代の遺構は、早期の集石17基、土坑6基が検出された。土器は、早期（前平式・吉田式・平裕式・塞ノ神式・手向山式・政所式土器）、前期（轟式土器）、中期（阿高式土器）、後期（指宿式・市来式土器）、晩期では浅鉢・深鉢が出土したが、土器の主体は早期の前平式・吉田式土器であった。石器は、石鏃・石匙・スクレイパー・石斧・磨石等が出土した。

古代から中世の遺構は、堀3、古道1、溝状遺構4、掘立柱建物跡7、柱穴・土坑が発見された。遺物は、土師器（皿・坏・埴・甕・浅鉢・墨書土器・刻書土器・黒色土器）、須恵器（坏蓋・坏身・埴・壺・こね鉢・提瓶・甕）、瓦器（甕）、磁器（白磁・



第1図 山崎B遺跡の位置

青磁・染付・青白磁）、陶器（天目・備前焼）、土製品（土鍾・紡錘車・鞆羽口）、石製品（石鍾・石鍋・小壺・蓋状石製品）、古銭（至直元宝・元祐通宝・洪武通宝・洪徳通宝）4種5枚が出土した。

特徴

台地東側に3本の堀と、その西側には7棟の掘立柱建物跡が検出された。堀は中世の古道で、「牛瀬戸」という地名等から中世の道と考えられる。当時の街道を知るうえで貴重な遺跡である。

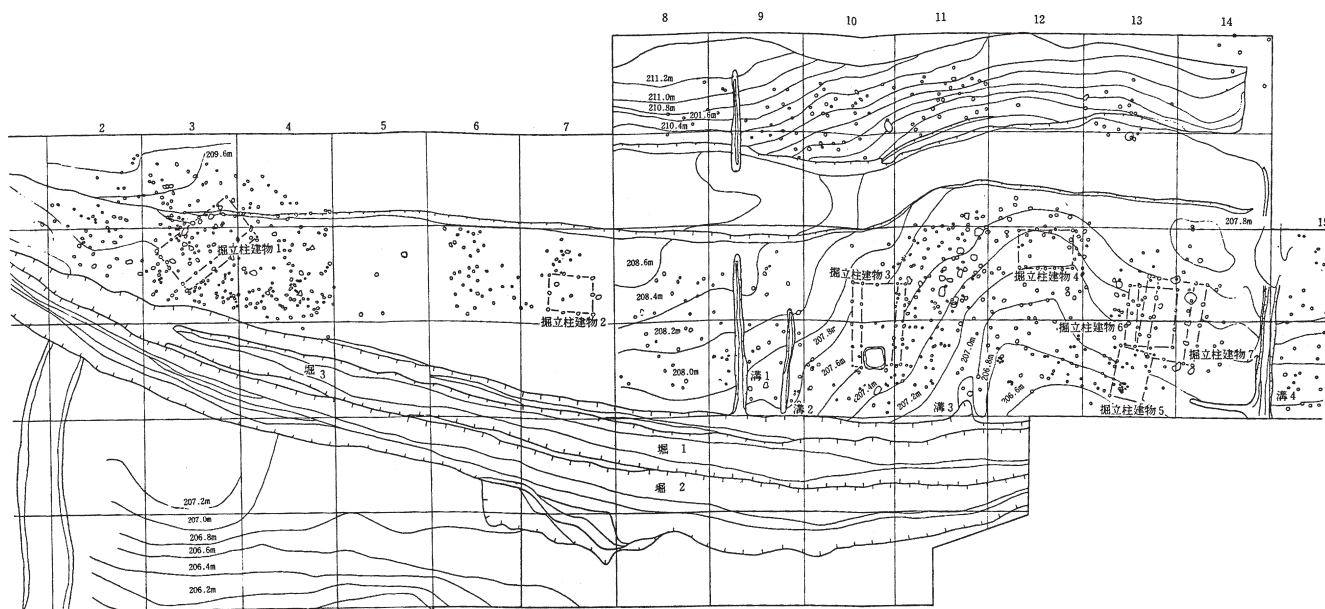
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

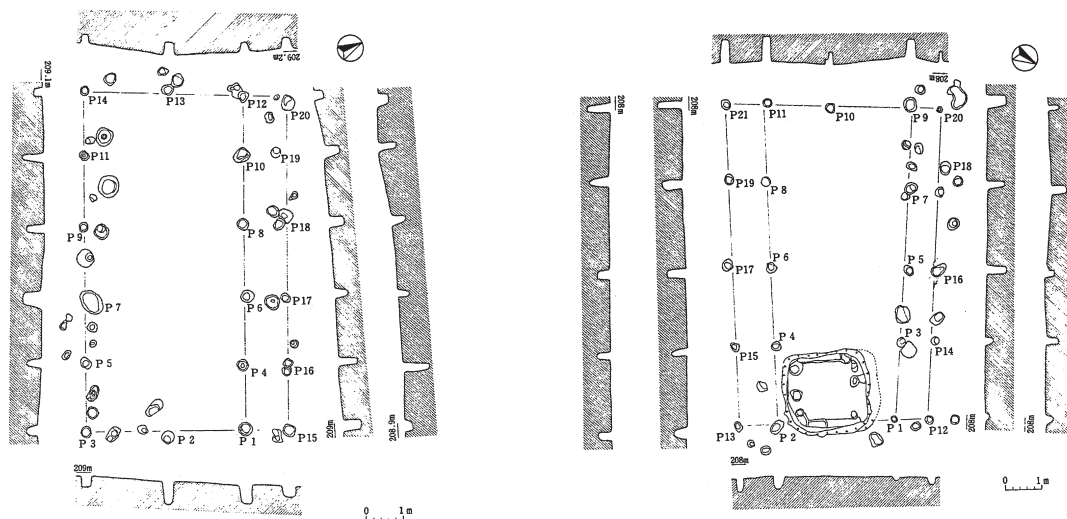
参考文献

鹿児島県教育委員会1982「山崎B遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』（18）

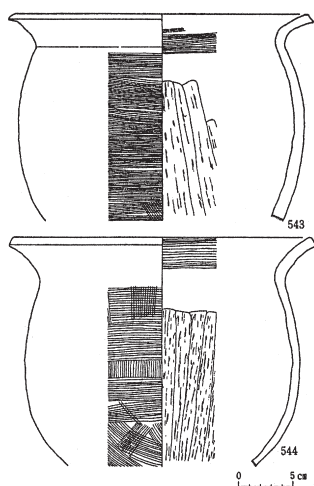
(牛ノ濱修)



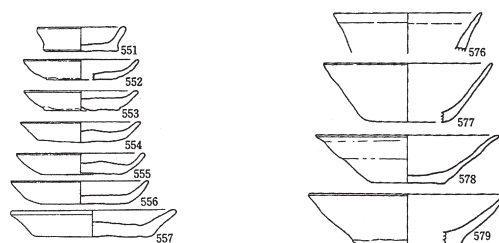
第2図 遺構配置図



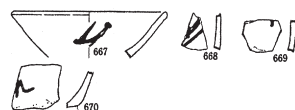
第3図 掘立柱建物跡



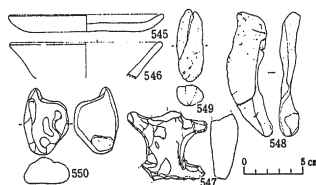
第4図 土坑出土の土師器甕



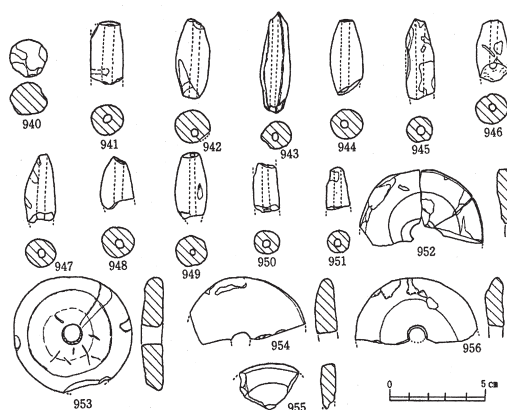
第5図 土師器



第6図 墨書土器



第7図 土坑出土の遺物



第8図 土製品